

国際課活動レポート

◆スペインガリシア州青少年交流派遣（3月6日～15日）



熊野古道を有する和歌山県は、サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼道を有するスペイン・ガリシア州と1998年に姉妹道提携を結んで以来、様々な交流を続けてきました。今回は和歌山県の青少年14名がガリシア州を訪問しました。〈以下、感想文抜粋〉

●実際にスペインに行き、スペインの人々の生活に触れ、文化や宗教の違いなど様々なことについて学ぶことができました。また、日本についてスペイン人と話すことで日本のことを伝えることもできました。外国について学び、自国についても深く知ったり外国人に伝えたりすることのできる国際交流にこれからは関わっていきたいと思います。

そして、サンティアゴへの道と熊野古道という二つの世界遺産を通して、外国人と知り合うことができました。言葉が違っても、外国人と親しくなることは難しいことだと思います。しかし、この二つの世界遺産は私達とスペイン人とを簡単に親しくさせてくれました。人と人とを繋げてくれる世界遺産は素晴らしいものだと思います。（E.E）

●僕は今回の研修を通して主に2つのことを学びました。それはコミュニケーションの大切さと積極的に人と関わることの大切さです。人と積極的に関わりコミュニケーションをとることによって新しい道が開けてくるとおもいます。そのことをこれからは大切にしたいと思います。（A.N）

●今回の研修ではスペインの良いところだけではなく、異文化に触れてみてわかる日本の良いところなども知ることができました。この8日間は私の生きてきた中で最も学ぶことがたくさんありました。海外に行くこと自体初めてで、出発前は不安と期待が同じくらいでしたが、今は本当にこの研修に参加できてよかったと思います。熊野古道と姉妹道であるサンティアゴへの道を自分自身の足で歩くことができたこと、旧市街や西洋の建築を堪能できたこと、教会などを訪れ、異なる宗教や文化に触れられたこと、世界遺産や様々な観光地にも訪問できたこと、ホームステイなど、他にもこの研修以外ではできない体験をたくさんすることができました。これからは、この研修での経験を自分の進路や人生に活かしていきたいです。（Y.N）

◆ 在関西領事団和歌山ツアー（4月12日）

鈴木関西担当大使が主催するツアーで、関西地区に駐在するオランダ、パナマ、インドネシア等11か国の総領事ら22名が和歌山県を訪れました。一行は広川町の稲むらの火の館を訪れ、浜口梧陵が津波から人々の命を救った逸話の映像を鑑賞したり、インドネシアのアチェ津波博物館の紹介コーナー等を見学しました。午後は白浜町の近畿大学水産研究所を訪れ、養殖現場等を視察しました。夕方には仁坂知事主催で、県内企業など関係者との懇談会を開催しました。



異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

みなさんは、クリケットというスポーツをご存知ですか？中には「野球に似ているスポーツ」としている人もいるのではないのでしょうか？インドでは、クリケットは絶大な人気を誇っています。

実は、クリケットと野球は似て非なるスポーツですが、インドでのクリケット人気は、日本の（昭和の？）野球人気をイメージしてもらえるとわかりやすいかもしれません。インドでは空き地や公園、車が走っている道路のそばでも、朝から晩まで、子供だけではなく、大人たちも「草クリケット」を楽しんでいます。



ムンバイには、クリケットのプロチーム「ムンバイ・インディアンズ」があります。私は今年4月からムンバイで滞在しているのですが、スーパーマーケットではインディアンズグッズが売られ、街中ではインディアンズの看板やチラシなどをよく見かけます。ムンバイ名物(?) 2階建てバスもインディアンズ仕様にペインティングされていました。それもそのはず、4月には、インド人が待ちに待ったクリケットのインディアンプレミアリーグが開幕されたからです。



ムンバイでは電車のラッシュがひどいので、混むタイミングを避け電車に乗っているのですが、先日、電車に乗っているとどんどん車両に人が乗ってきました。「しまった!」と思っていると、あちこちに青い服を着た人たちが。そして、そこにはインディアンズのマークが。ちょうどその日、インディアンズの試合があったようです。甲子園に行くときの阪神電車を思い出しました。

まだ、クリケットの観戦をしたことがないので、インド派遣中に一度はスタジアムに行ってみたいと思っています。みなさんも、ぜひ、インディアンズの応援にムンバイにお越しください。

〈平井秀和（平成29年4月よりインド・ムンバイに派遣中）〉



ゲストコラム

◎和歌山県は全国有数の移住母県です。当県から海外への移住は明治初期から始まり、その数は全国第6位となっています。ブラジルをはじめとする中南米や北米などの渡航先では移住者やその子弟により、和歌山県人会が結成されています。今回はブラジルとアルゼンチンにある和歌山県人会の子弟が県内に3週間滞在し、様々な交流を通じて、彼らのルーツである和歌山について学びました。(以下、感想文抜粋)

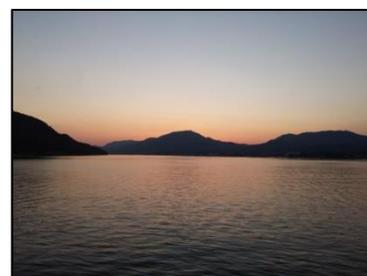
名前 高木大介トンソンさん

出身地 ブラジル・南マットグロッソ州

日本人社会は、僕たちブラジル人からうらやましがられています。日本人は礼儀を守り、落ち着いていて、気配りがあり、自然・環境に気を使います。そんなことをするブラジル人は少ないです。それから、日本食はとてもよく、観光地も素晴らしいと思います。



この研修全体が僕の考え方を前向きに変え、人生の目的も僕の生涯の観点も変わりました。この旅が実現してとてもうれしく感じています。多くの人々と触れ合うことができ、だれもが親切にして下さって感謝しています。日本文化を自宅で使い、つぎの世代にも伝えたいです。



↑ホストファミリーに連れて行ってもらった高野山で初めて見た雪。

名前 蒲田浩フェルナンドさん

出身地 アルゼンチン・ミシオネス州

親戚と出会って大変嬉しかった。祖母が育った所を色々案内してくれてとても楽しかったです。祖母のいとこに会った時、母や曾祖父が和歌山に行った時の話をしてくれて楽しかったです。

那賀高校で行われた交流会では、学生と食事の時間にお弁当を食べながら会話をとても楽しかったです。それから、日本の文化や和歌山の観光地を教えてくれてとてもよかったと思います。日本とアルゼンチンの違いを話してとても面白かったです。



このプログラムに参加させて貰ってとても嬉しかったです。そして、沢山の友達を作ることができました。それから、身につけた日本の文化や習慣をアルゼンチンで伝えたいです。それだけではなく、日本の経験を次の世代に伝えたいと思っています。最後は日本語を話せるようになってとても嬉しかったです。



英語コラム

“Photogenic”

“写真写りが良い” “写真映えする” という意味の言葉です。日本でも“フォトジェニック” とそのまま使われるようになってきました。” She is so photogenic!” “彼女はすごく写真うつりがいいね。” などのように使われます。

最近では、SNS 中でも写真の投稿がメインのインスタグラムを使う人が多くなり、派生した “instagenic” という言葉も使われるようになりました。日本語でも “インスタ映え” といいますよね。インスタグラムへの投稿を前提として、“インスタ映え”する景色を見に行ったり、食べ物を注文したりするのが大人気となっています。インスタグラムでは、写真や文章とともに、ハッシュタグ（#マークがついたキーワード）を付けることにより、より多くの人に自分の投稿を見つけてもらうことができます。英語で人気のハッシュタグを調べてみると、#love、#smile、#travel、#selfie（以前英語の流行語大賞にあたるものとしてこのコラムで紹介しましたね）などのシンプルなものもあれば、#tbt、#ootd、#piccoftheday、#nofilter、#like4like などの一見わかりにくいものもありました。皆さん、どういう意味かわかりますか？

色んなハッシュタグを使って、英語の勉強もしながら、情報の収集・発信をしてみてください！

【tbt】 throw back thursday の略。つまり “木曜日は振り返りの日” ということで、昔の写真を投稿するときに使います。曜日にちなんだハッシュタグは色々あるので調べてみると面白いですよ。

【ootd】 outfit of the day の略。つまり “今日の服装” ということで、その日の自分のファッションを投稿するときに使います。

【picoftheday】 picture of the day、つまり “今日一枚” ということで、その日のベストショットを投稿するときに使います。

【nofilter】 フィルターなし、無加工ということ。アプリなどで加工した写真ではなく、撮った写真をそのまま投稿するときに使います。加工していないことが信じられないくらい綺麗な写真が撮れた時に使ってみましょう！

【like4like】 4 は for の代わり、つまり “いいね” してくれたら私もあなたの写真に “いいね” しますよということ。“いいね” の数を増やしたいときに使います。

